

第 2 章

施策の展開

1 基本理念

「地域共生社会」とは

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会（平成29年2月7日「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部決定）

地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進は、地域住民の暮らしに関わる地域生活課題への包括的・重層的な対応を地域づくりとあわせて進めることです。

社会的孤立や社会的排除をなくし、誰もが役割を持ち、お互いが支えあっていくことができる地域共生社会を創出することは、高い理想であるかもしれません。

しかしながら、誰もが主観的に幸せになってほしい、誰もが岡崎で暮らして良かったと思える「まち」でありたいという願いは強く、「第2次岡崎市地域福祉計画」から「みんなで築く ホッとなまち 生き生きと暮らせる 支えあいのまち」を基本理念に掲げて地域づくりを推進してきました。

「第4次岡崎市地域福祉計画」（以下、「本計画」という。）においても引き続きこの基本理念を掲げ、地域共生社会の実現に向けた挑戦を続けます。

■基本理念

みんなで築く ホッとなまち
生き生きと暮らせる 支えあいのまち



2 基本目標

（１）お互いを認め支えあう心を育て、地域のつながりを深めましょう

地域福祉についての周知、啓発により地域福祉活動へのきっかけづくりを行い、身近な手助けを必要とする人の声に気づくことができるような思いやりの心を育んでいきます。また、地域での交流を深めたり、居場所づくりを通じて、地域のつながりの強化を図ります。

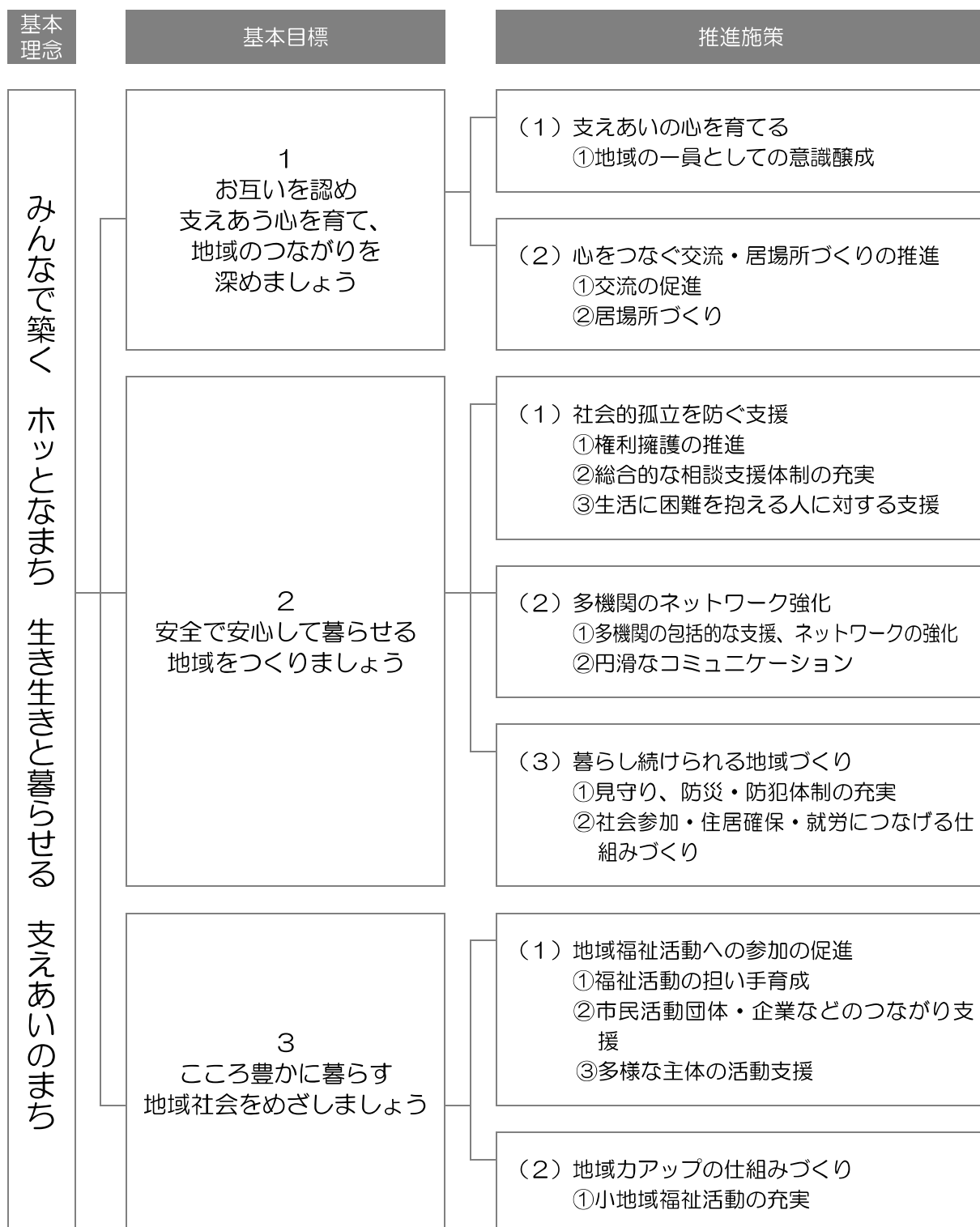
（２）安全で安心して暮らせる地域をつくりましょう

生活困窮や社会的孤立などの地域生活課題に対応した包括的な支援体制の構築や福祉サービスの適切な利用促進をめざすとともに、地域・市・社会福祉協議会の連携をはじめ、専門機関との連携体制の強化を図り、多様なニーズに応じた仕組みづくりに取り組みます。

（３）こころ豊かに暮らす地域社会をめざしましょう

地域での活動を維持するため、また、活動を次の世代に引き継いでいくため、福祉活動の担い手づくりや活動団体の体制強化の推進を図ります。

3 施策体系



4 取組事例紹介

基本 目標

1

お互いを認め支えあう心を育て、
地域のつながりを深めましょう

(1) 支えあいの心を育てる

① ふれあい岡崎 福祉まつり ―＜一般市民対象＞

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

誰もが安心して暮らせる福祉ボランティアのまちづくり運動を永続的に推進するため、市民にボランティア活動の基盤づくりや福祉風土づくりの推進、ノーマライゼーション及びバリアフリーの啓発を図るイベントです。ボランティア団体の活動体験や福祉体験、社会貢献企業の活動紹介、障がい者の就労支援施設の物品販売などを行っています。

■活動の様子



② 介護者のつどい（くつろぎルームたんぽぽ）

＜学区地域住民（介護者・介護に興味がある方）対象＞

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

絵手紙教室や料理教室、福祉制度の勉強会や介護体験者による講演、施設見学などを実施しています。介護者同士の情報交換や介護者の悩み、健康相談を気軽にすることができる場所を提供することで、介護疲れやストレスの軽減を図ることを目的としています。

■活動の様子



③ 学区福祉防災講座（学区災害避難所宿泊体験）——＜額田地域住民対象＞

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

大規模地震や土砂災害等を想定し、防災講話や防災寸劇、防災資材づくり、炊き出し訓練、グループワークなどを通じ、地域や家庭でできる備えについて地域住民みんなで考えます。また、実際に避難所となる体育館での宿泊による避難所生活を体験し、災害時の大変さや困難なこと、そして住民同士助けあうことの大切さについて共有します。

■活動の様子



④ 福祉実践教室・福祉教育プログラム

＜市内の小学校・中学校・高等学校のうち、希望する学校（学年やクラス）対象＞

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

児童・生徒が高齢者や障がいのある人から講話を聞き、実際に疑似体験を行っています。様々な人が暮らしている地域社会で相手の立場を理解し、思いやりの心を育み、「人にやさしいまちづくり」として日常的な福祉活動を実践するためのきっかけとなっています。福祉実践教室は、体験を中心とした授業、福祉教育プログラムは事前学習・体験・事後学習を1つのプログラムとして提供しています。

■活動の様子



(2) 心をつなぐ交流・居場所づくりの推進

① 子ども食堂をはじめとした食支援活動 ―＜一般市民対象＞

【おいでんネットワークの事例】

おいでんネットワークは、すべての子どもが幸せになることを目的として様々な活動を実施しています。「おいでん家子ども食堂」「夏休みおいでん」を開催し、子どもが安心して食事をしたり遊んだりすることができる場を提供しています。

また、地域の高齢者がお茶を飲んで過ごす「ほっこりお茶会」、岡崎市と連携し、支援を必要とする世帯への食支援活動を行う「ラブ♡フードおいでん」などの活動も行っています。

■活動の様子



② 北斗台会館を活用した地域の居場所 ―＜細川学区の住民対象＞

【細川学区北斗台（町内会）の事例】

ラジオ体操・コミュニティカフェ・朝市・ランチ大集合・北斗台春フェス・どんぐり山大集合など、北斗台会館や公園を活用して、子どもから大人まで、住民同士が交流する居場所になっています。

■活動の様子



(1) 社会的孤立を防ぐ支援

① 市民向け権利擁護講演会 ―〈一般市民対象〉―

【岡崎市障がい者基幹相談支援センターの事例】

毎年講師を招き、市民向け権利擁護講演会を開催しています。講師は、当事者やその支援者など、直接障がいのある人に関わりのある人が中心となっています。市民に対し、障がいのある人も同じ地域住民の一員であることをわかりやすく理解してもらうことができるテーマ設定を行っています。

■活動の様子



② OKフードドライブ ―〈生活困窮者・子育て世帯対象〉―

【OKフードドライブ実行委員会・各企業・岡崎市・岡崎市社会福祉協議会の事例】

OKフードドライブとは、有志の団体などから寄付いただいた食料品・生活用品を必要とする人に届ける活動のことです。「困っている人の役に立ちたい！私たちにできることをしたい！」という思いをもつ有志が地元企業を中心に集まり、事務局が立ち上げられました。OKは「大人から子どもまで」「おかざき」という意味を表しており、生活困窮者や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により生活に不安のある子育て世帯に、食料品・生活用品が配付されています。

■活動の様子



③ 福祉総合相談体制の充実 ―＜一般市民対象＞

【岡崎市・岡崎市社会福祉協議会の事例】

世代や属性を問わない、福祉に関する「まるごと相談窓口」として、岡崎市役所に『ふくサポ』、額田支所に『ふくまど』を設置しています。地域住民からの相談に応じ、セルフネグレクトや長期にわたるひきこもりなど、困りごとを抱えた本人または家族にまるごと寄り添い、関係機関と連携を図りながら、誰一人取り残さない地域社会の実現に向けた取り組みを進めています。

■活動の様子（ふくサポ）



■活動の様子（ふくまど）



（２）多機関のネットワーク強化

① 権利擁護研修会の実施 ―＜福祉関係事業所対象＞

【岡崎市障がい者基幹相談支援センター・岡崎市成年後見支援センターの事例】

関係機関などが一堂に会して権利擁護や虐待に関する研修（勉強会）を開催しています。研修では、権利擁護や虐待に関する現状や課題について共有するとともに、適切な対応方法などについて検討が行われています。

■活動の様子



② テーマ型ボランティアと地縁型ボランティアの連携

＜ボランティア活動者・一般市民対象＞

【岡崎市ボランティア連絡協議会・岡崎市学区福祉委員会連絡協議会の事例】

福祉課題が多様化する中で、テーマ型ボランティアと地縁型ボランティアと一緒に課題解決に向けた活動をしていく必要があると感じ、両組織の情報交換会を行っています。その中で、両組織の課題として挙げた担い手不足を解決するため、「はじめての一步体験会」を実施しています。

■活動の様子



(3) 暮らし続けられる地域づくり

① 災害ボランティア支援センター設置運営訓練 <一般市民対象>

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

大規模災害時に開設することがある災害ボランティア支援センターの存在や機能・役割を市民に知ってもらうため、また、登録の災害ボランティアコーディネーターをはじめ、関係者の知識・技術の向上のため、災害ボランティア支援センターの設置・運営訓練を実施しています。

■活動の様子



② ひきこもり経験者の社会参加に向けた取り組み <ひきこもり経験者対象>

【岡崎市社会福祉協議会・ひきこもり不登校支援団体・各企業の事例】

岡崎市社会福祉協議会・ひきこもり不登校支援団体・各企業が連携し、不登校やひきこもりの経験者が社会に踏み出す際の第一歩として、職場体験を実施しています。具体的には、販売店での商品の整理や車の清掃などが行われており、企業としては雇用の確保を図るとともに、社会貢献活動の一つとなっています。

■活動の様子



(1) 地域福祉活動への参加の促進

① 地域福祉リーダー養成塾 <学区福祉委員会・ボランティアセンター登録団体対象>

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

主にボランティア団体や学区福祉委員会のリーダー層の人に対し、地域福祉活動の意義や必要性を理解し、地域福祉活動を進める上で、リーダーとして組織運営に必要なコミュニケーション能力、行動力、決断力などのリーダーシップ力を高める方法を学ぶ地域福祉リーダー養成塾を開講しています。

■活動の様子



② サロン活動に参加できない高齢者の送迎

<学区福祉委員会主催のサロン活動に参加する高齢者対象>

【岡崎市社会福祉協議会・学区福祉委員会・企業の事例】

サロン活動を実施している会場までが遠い、坂が急で大変など、サロンに行きたくても行くことができない高齢者の送迎を行っています。送迎にあたっては地元企業と連携し、企業の試乗車を活用するとともに、企業の従業員が運転手を務めています。送迎は、高齢者の自宅とサロン活動を実施している会場までを直接結び、サロン活動に多くの高齢者が参加することができています。

■活動の様子



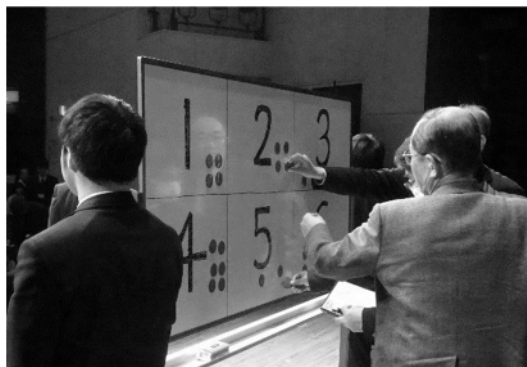
③ 岡崎福祉ハッピーリンク活動助成事業 <地域福祉活動に取り組む団体対象>

【岡崎市社会福祉協議会の事例】

岡崎福祉ハッピーリンク活動助成事業とは、赤い羽根共同募金を財源に、市内で先駆的で必要性の高い地域福祉活動に取り組む団体に、活動費を助成する事業です。

赤い羽根共同募金の用途を市民に知っていただくことも一つの目的としています。申請団体は、公開プレゼンテーションにおいて、活動の目的や資金の用途などについて話し、参加者（一般市民）の投票により、助成金額の最終決定を行っています。

■活動の様子



④ ボランティア入門講座 <一般市民対象>

【岡崎市ボランティア連絡協議会の事例】

ボランティア活動の担い手不足の解決やボランティア活動に興味・関心をもち、ボランティア活動を始めるきっかけをつくるため、ボランティア団体が講師となり、活動紹介や体験を行うボランティア入門講座を実施しています。

■活動の様子



(2) 地域力アップの仕組みづくり

① お散歩ビンゴ <一般市民対象>

【南部地域包括支援センター・むつみ地域包括支援センターの事例】

お散歩ビンゴとは、六ツ美地域内で取り組んでいる、介護予防、健康づくりを目的とした取組です。ビンゴカードを手に散歩をしながら、地域内に掲示された番号を探します。番号掲示には、六ツ美地域内の企業や事業所、寺院など、約100か所の番号ポイントがあり、誰でも自由に参加が可能です。

■活動の様子



② PCめだかふれあいクラブ <矢作西学区の住民対象>

【矢作西学区福祉委員会の事例】

PCめだかふれあいクラブとは、パソコンの操作が得意な地域住民が講師となり、パソコンの使い方について住民同士が学びあう活動です。会場の宇頭公民館は、町内会の理解もありWi-Fi環境が整備されています。またコロナ禍においては、オンラインシステムZoomを活用し、クラブ活動を継続しています。パソコン操作のスキルも、地域住民のつながり力もアップする、一石二鳥の活動です。

■活動の様子



③ ふくふくタイム ＜福岡小学校 1 年生対象＞

【福岡学区福祉委員会の事例】

ふくふくタイムとは、時間割の都合上、小学 1 年生だけで下校する日に、上級生の授業が終わるまで福岡学区福祉委員会メンバーが福岡小学校に出向き、昔遊びなどをして 1 年生児童と過ごす活動です。地域と学校が連携し、児童の安全な下校が実現しています。

■活動の様子



④ 竜小フェスティバル ＜竜美丘学区の住民対象＞

【竜美丘小学校 P T A ・ 竜美丘学区福祉委員会の事例】

竜美丘学区で毎年開催する福祉まつり。令和元年度から、竜美丘小学校 P T A と竜美丘学区福祉委員会が協働し「竜小フェスティバル」として開催しています。福祉体験コーナーや福祉講演会、模擬店や折り紙などを使ったふれあいコーナー、相談会などのブースを設け、福祉について関心を持ってもらう機会をつくっています。子どもや保護者、高齢者など、幅広い世代が参加する交流の場となっています。

■活動の様子





こんな活動あったらいいな！取組のアイデア集！

岡崎市地域福祉計画事業検討部会で、地域福祉計画を推進していくための新たな取組についてアイデアを出してみました！

ふくしでつながると地域が強くなる！！以下のアイデアを、各地域における今後の取組の参考にしてみてください。

★ テーマ【ふくし×情報化社会】で創造する「こんな活動あったらいいな！」

■取組の概要

区分	内容
タイトル	ＩＴを活用した見守り活動
地域の現状と今後の方向性	見守り活動は、訪問によって実施されているところがほとんどであるが、支援者の負担軽減や見守りの頻度をあげること、効率化を図るためにＩＴを活用した見守り活動に取り組むことが考えられないだろうか。
具体的な取組案	○ まずはスマートフォンの操作勉強会 ・ 見守り対象者・支援者、どちらも操作に慣れよう！！ ・ 大学生や企業に先生になってもらおう
参画メンバー	○ 講師…学生・企業など ○ 会場…福祉事業所・公共施設・企業など ○ 企画・運営…見守り活動実践者・福祉委員会・町内会など

★ テーマ【ふくし×多文化共生】で創造する「こんな活動あったらいいな！」

■取組の概要

区分	内容
タイトル	外国人との交流を深めよう ～異国の生活を知り、自分たちの生活も豊かに～
地域の現状と今後の方向性	言語も文化も習慣も異なる日本人と外国人が同じ地域で暮らしていくためには、お互いが知りあうことが必要になる。お互いを尊重しあい認めあうために、様々な場面で交流の機会をつくることはできないだろうか。
具体的な取組案	○ 異国体験交流会（食・文化） ○ 地域のルールを学ぼう（ゴミ出しや買い物など） ○ 避難訓練（避難所体験など） ○ やさしい日本語勉強会
参画メンバー	町内会・ボランティア団体・外国人支援団体など

★ テーマ【ふくし×環境保全】で創造する「こんな活動あったらいいな！」

■取組の概要

区分	内容
タイトル	自分たちのまちは自分たちで守る！つくる！
地域の現状と今後の方向性	まちの保全のために、清掃活動や通学路の整備など、様々な活動がされているが、実際に誰が活動をしているのか、知らないことが多い。自分たちのまちを自分たちで守るために、多くの地域住民が関わることができるとよいのではないか。
具体的な取組案	○ まずは自分のまちの保全活動について知る ○ 自分のまちの保全活動に参加する（ごみ拾いや清掃活動など） ○ 自分たちで守るために、住民同士が知りあう
参画メンバー	町内会・地元の学生・企業など

★ テーマ【ふくし×農林水産】で創造する「こんな活動あったらいいな！」

■取組の概要

区分	内容
タイトル	農地を囲んでつながろう！！
地域の現状と今後の方向性	市内には、地主の高齢化や後継ぎがないなどの理由で、田畑の維持ができず放置されている農地がみられる。その農地を有効活用し、農作物などを育て収穫することで、地域住民同士のつながりづくりとなり、農地の保護にもつながるのではないか。
具体的な取組案	○ 遊休農地を活用し、農作物を育てよう ○ 収穫作業もみんなで体験 ○ 収穫した野菜などで料理をつくっちゃお！！
参画メンバー	地主・福祉施設・子ども食堂・学校など

